論壇

高齢ドライバーあれこれ

齋藤茂太
精神科齋藤病院院長

A Few Things about Elderly Drivers

Shigeta SAITO

Director, SAITO Psychiatric Hospital

先日私は74歳になった。その誕生日の少し前、私は何回目かの車の免許更新をした。私が初めて免許をとったのは昭和11年のことだが、その後戦争、空襲、敗戦、困窮の時代が続き、車どころではない生活が日常的だった。

戦後、再び車になじむようになったのは昭和29年頃からである。英国のシンガーという車をセコハンで手に入れた。この車は故障ばかり起こして、しょっちゅう「入院」していたが、大いに愛着があり、なかなか手離せなかった。ダッシュボードに私の名前が書いてあったからだ。シンガー・モータースの頭文字のSM、つまりサイトウ・モタではないか。

それはともかく、先日の免許更新は何とかパスした。そのあと係の人にたのんで、警察庁方式CRT運転適性検査をしてもらった。恥ずかしながら、その結果をここに報告する。評価値の3、4、5は問題なし、1、2は要注意である。

まず「反射的動作」中の緊急反応検査は2、連続緊急反応検査は4であった。「判断的動作」のアクセル・ブレーキ検査は3。次いで「適度な精神緊張の維持」の中の反応むらは、緊急反応は2、連続緊急反応は3。アクセル・ブレーキ検査は5、弛緩反応（連続緊急反応）は4。さらに「動作の確かさ・見込反応」の焦躁反応（連続緊急反応）は2、誤反応（アクセル・ブレーキ検査）は2。「注意の配分・認知。注意の集中分散」中の誤反応（側方警戒の中心・周辺・全領域）はすべて1、反応速度（側方警戒）は4、バランス（ハンドル操作）は4。さいごに「状況処理の巧みさ」の節約率（ハンドル操作）は1、バランス（ハンドル操作）は4、操作の速さは3、ざっとこんなところで総合判定は3であった。

ごちゃごちゃしてよく分からないが、要するに私の欠点は反応にムラがあり、その時の調子で早かったり遅かったりすることがある、判断より動作が先立ち、大ざっぱになり粗雑になる、全般的に見落としが多い、等々の注意を受けたことになる。総合判定は「行動機能は問題なし」であったが、反応動作の速すぎは、むしろ行動のバランスをくずします、とクギを刺された。評価値は3であるから決して威張れないが、まあ全体的には可もなく、不可もなしというところらしい。

周囲の年配のドライバー連を観察すると期待過剰意識の強い「お天狗屋」が多いが、反応の低下、集中力低下、夜間視力低下は多くの人が指摘するところだ。

さらにつけ加えれば、人間ある年齢になると前立腺肥大傾向が出て（私はすでに手術をした）、尿意頻数を来す。これが運転に大きな影響を及ぼすことは当然だ。また首が回りにくくなるから、バックで後ろを見るのが辛い。歩行者も多かれ少なかれ、パーキンソン症状の傾向が出るから、急に立止まることができず、トントンと前に出てしまう。これが事故につながる。老化の一つの現れとして感情の失禁から情緒の不安定を来すこともあり得る。これが危険な運転にもつながりかねない。

いつ迄運転できるか、これから自らを被験者として励もうと思う。

原稿受理　1990年4月28日